専門分野

精神看護学

シ　ラ　バ　ス

科目名	精神看護学総論	単位	1	時間数	30	開講時期	1年次後期	担当者	教員 精神科看護師
学習のねらい	精神看護学は、人間のこころの健康問題について、問題解決に向かえるように相談や支援を提供することである。また精神看護の対象は、こころの看護を必要とするすべての人々である。精神障害を持つ人にとどまらず、身体疾患のある人、地域で生活している人など生活している人すべての精神保健も含む。このことから、幅広い精神看護の役割を学ぶ。また精神看護コンサルテーションとしての、看護の全領域にわたるリエゾン精神看護も学ぶ。								
目的・目標	目的;人間の心の働きと人格の理解をベースに、精神の健康及び障害の理解とその予防について理解する。また、精神保健医療福祉の歴史から現在の法制度などの現状の理解と共にリエゾン精神看護についても理解する。 目標;1. 精神の健康や障害など精神保健の考え方について理解できる。 2. 人間のこころの動きとストレッサーとストレス反応の関係と危機への対処法について理解できる。 3. 精神の機能と障害(症状)にはどのようなものがあるのかを学び、症状のとらえ方を理解できる。 4.看護の主要な対象である家族及び集団の特性とそのダイナミクスについて理解する。 5. 精神保健医療福祉の歴史を振り返り、法制度や精神科医療と福祉の現状について理解できる。 6. リエゾン精神看護の概要と看護における感情労働とメンタルヘルスの必要性を理解できる。								
授業計画	1回　(45分×2)　精神看護学とは 2-3回　(45分×4)　精神保健福祉の歴史と法制度 4回　(45分×2)　人間の人格と心の動き、防衛機制 5-6回　(45分×4)　精神障害のある人の理解　精神疾患と精神症状とは 7回　(45分×2)　精神障害のある人の理解　対象とのコミュニケーション 8回　(45分×2)　精神障害のある人と家族の理解　当事者家族の理解の必要性とは 9-10回　(45分×4)　ストレス理論と危機介入 11回　(45分×2)　精神科医療と福祉の現状 12回　(45分×2)　地域における精神看護　地域・学校・職場・災害時 13回　(45分×2)　看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス 14回　(45分×2)　リエゾン精神看護について 15回　(45分×2)　筆記試験								
評価方法	試験（80%）、レポート（20%）から評価する								
教科書	系統看護学講座　精神看護学①　精神看護の基礎　医学書院 系統看護学講座　精神看護学②　精神看護の展開　医学書院								
参考文献	授業で配布する参考資料								
履修要件									

シ ラ バ ス

科目名	精神看護援助論Ⅰ	単位	1	時間数	30	開講時期	2年次前期	担当者	精神科医師 教員
学習のねらい	対象の特徴や観察の視点を学習し、精神障害が及ぼす日常生活への影響について理解を深め、その援助の内容について学ぶ。症状別看護では、具体的な場面を通して、対象の心理状態や対応時の留意点について学習する。								
目的・目標	目的;看護を展開していくうえで必要となる精神障害の特徴、検査、治療について学ぶことを通して、精神障害をもつ対象の看護とその必要性について理解できる。 目標;1. 各精神疾患の特徴、検査、治療について理解できる。 2. 精神症状がコミュニケーションに与える影響について理解できる。 3. 精神状態のアセスメント方法について理解できる。 4. 各精神疾患のアセスメントと看護の役割について理解できる。								
授業計画	1回 (45分×2) 精神科治療の基礎知識 2回 (45分×2) 統合失調症 3回 (45分×2) 気分（感情）障害 4回 (45分×2) 神経症性障害、ストレス関連性障害および身体表現性障害 5回 (45分×2) 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群 6回 (45分×2) 人格障害、器質性精神障害、てんかん、知的障害、発達障害 7回 (45分×2) 臨床検査、薬物療法 8回 (45分×2) 精神科看護とコミュニケーション 9回 (45分×2) 精神症状とセルフケアの関連性 精神症状アセスメントとセルフケアアセスメント 10回 (45分×2) 統合失調症 アセスメントと看護 11回 (45分×2) 気分障害（双極症） “うつ”と“躁”のアセスメントと看護 12回 (45分×2) 神経症性障害（不安障害、パニック障害、強迫性障害） アセスメントと看護 13回 (45分×2) 物質（アルコール）関連障害、自傷・自殺 アセスメントと看護 14回 (45分×2) 摂食障害・発達障害 アセスメントと看護 15回 (45分×2) 筆記試験								
評価方法	試験(80%)、事前課題(10%)、レポート(10%)から評価する。								
教科書	系統看護学講座 精神看護学① 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 精神看護学② 精神看護の展開 医学書院								
参考文献	授業で配布される参考資料								
履修要件	精神看護学総論を履修していることが望ましい。								

シ　ラ　バ　ス

科目名	精神看護援助論Ⅱ	単位	1	時間数	30	開講時期	2年次前期	担当者	精神科看護師 作業療法士 教員
学習のねらい	精神看護学総論・精神看護援助論Ⅰの基礎知識を活用して、看護の方法を学ぶ科目である。各経過にある対象の理解とそれぞれの経過の特徴的な看護を学ぶ内容とする。また、精神科病棟・保護室など、その規制によっておこる問題とその対処について考え、対象の人権、人格の尊重という視点を重視する。既習学習の想起と応用、事例展開によって知識の統合し、精神障害をもつ対象の状況に応じた援助の方法を学習する。								
目的・目標	目的;各経過にある対象の理解とそれぞれの経過の特徴的な看護、そして、様々な精神科治療と伴う看護について理解できる。 目標;1. 各病期における入院治療と看護の展開について理解できる。 2. 精神症状とその看護について理解できる。 3. 様々な精神科治療とその看護について理解できる。								
授業計画	1回目　(45分×2)　急性期の看護活動　ケアの原則 2回目　(45分×2)　統合失調症の急性期看護展開 3回目　(45分×2)　気分障害（双極症）の急性期看護展開 4-5回目　(45分×4)　【校内演習】身体拘束時の看護 6回目　(45分×2)　神経症性障害の急性期看護展開 7回目　(45分×2)　【校内演習】暴力対策と看護 8-9回　(45分×4)　精神科治療と看護　向精神薬の知識 10回　(45分×2)　精神科治療と看護　電気けいれん療法、トラウマインフォームドケア 11回　(45分×2)　精神科治療と看護　認知行動療法と社会生活技能訓練 12-13回　(45分×4)　精神看護の実際　～慢性期・回復期の症状に対する看護と身体合併症～ 14回　(45分×2)　精神科作業療法　　リハビリテーション、国際生活機能分類（ＩＣＦ） 15回　(45分×2)　筆記試験								
評価方法	筆記試験(100%)で評価する								
教科書	系統看護学講座　精神看護学①　精神看護の基礎　医学書院 系統看護学講座　精神看護学②　精神看護の展開　医学書院								
参考文献	授業で配布する参考資料								
履修要件	精神看護学総論を履修していることが望ましい。								

シ　ラ　バ　ス

科目名	精神看護学演習	単位	1	時間数	15	開講時期	2年次後期	担当者	教員
学習のねらい	精神科看護の役割の一つに、健康障害によって損なわれた患者の生活を支え、援助していくことがある。その生活への援助が、患者の個別性を考慮したよりよいものとなるために、看護過程を展開する能力が求められる。既習してきた対象への理解とその看護に関する知識を統合させて、精神障害者のアセスメントを系統的に行い、看護計画の立案について理解を目指す。								
目的・目標	目的;既習してきた対象への理解とその看護に関する知識を統合させて、精神障害者のアセスメントを系統的に行い、看護計画の立案について理解できる。 目標; 1. 紙面事例からアセスメントに必要な情報を読み取ることができる。 2. 読み取った情報を枠組みに従い分類できる。 3. 分類した情報を分析できる。 4. 分析した結果をもとに看護の方向性を決定できる。 5. 看護問題の明確化を行い看護計画が立案できる。								
授業計画	1回　(45分×2)　事例紹介　フェイスシート 2回　(45分×2)　内服薬・治療方針まとめとアセスメント 3回　(45分×2)　セルフケアアセスメント 4回　(45分×2)　精神症状アセスメント 5回　(45分×2)　看護計画立案　看護診断・期待される成果・計画 6回　(45分×2)　【校内演習】ロールプレイ　プロセスレコード 7回　(45分×2)　看護計画の実施・評価 8回　(45分)　まとめ								
評価方法	レポート(100%)を総合して評価する。								
教科書	系統看護学講座　精神看護学①　精神看護の基礎　医学書院 系統看護学講座　精神看護学②　精神看護の展開　医学書院								
参考文献	精神看護学総論、精神看護援助論Ⅰ、Ⅱで配布した資料 その他、授業で配布する参考資料								
履修要件	基礎看護援助論Ⅷ、精神看護学総論、精神看護学援助論Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましい。								